

オヤ世代お役立ちサービス①

電球交換・家具移動など 単発の困りごとを解決!

NPO法人パオッコ

「離れて暮らす親のケアを考える会」

太田差恵子

核家族が一般的となった社会で、高齢者だけの世帯は増える一方です。生活のなかで発生する困りごと。いろいろな世代が同居していれば、家族のなかで解決できますが、

でしょう。しかし、介護保険制度の申請をするほどでない状態であっても高齢になると困りごとは起きてきます。

例えば、照明器具の電球の交換や家具の移動など。遠く



絵・せきとものぶ/㈱カトウプロ

核家族ではそれが難しい現状があります。

支援や介護が必要になれば、介護保険制度でホームヘルプサービスを利用しサポートしてもらうことも選択肢となる

に暮らす子に頼むのも遠慮があるようです。ある80代のひとり暮らしの女性のお宅にお邪魔したとき、玄関ホールの電球が切れていてとても暗いことが気になりました。尋ね

ると「正月に息子が帰ってきたら、交換してもらおうと待っているの」との返答でした。

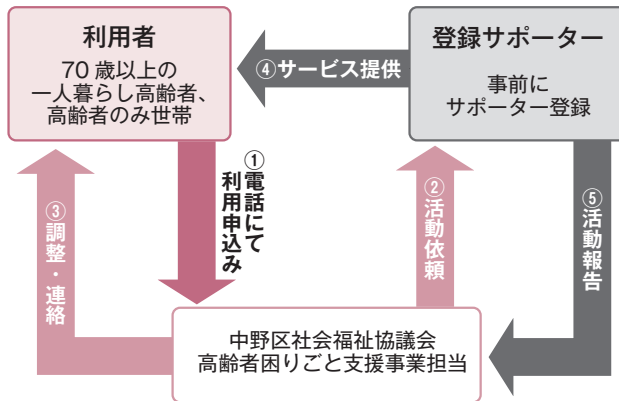
●中野区社協の事業

社会福祉協議会ではこういった高齢者の困りごとに対応するサービスを実施しているところがあります。名称はさまざまですが、東京都の中野区社会福祉協議会では「高齢者困りごと支援事業」として平成21年にサービス提供を開始しました。

この事業を始める以前から地域住民の参加と協力により、在宅での日常生活を有料で援助する会員制の区民同士の支え合い「ほほえみサービス事業」は存在し、現在も多くの方に利用されています。

大きな違いは「利用者」登録の必要の有無です。「ほほえみサービス事業」では、利用者も「利用会員」として登録し、社会福祉協議会の職員の訪問

■中野区高齢者困りごと支援事業のしくみ



を受けて事業の仕組みを聞き、現状の把握をしたうえで、「協力会員」がサポート活動に入ります。

それに対し、「高齢者困りごと支援事業」では、利用者登録は不要のため、利用者からいうとお手軽感が大きいといえます。実際、「困っています」という連絡を受けると、早い場合は即日や翌日に対応できる場合もあるのだとか。

サポート内容は電球の交換、荷物の移動などで、1人のボランティア（登録サポーター）が30分以内で終了するものと限定されています。水道・ガス・電気故障など、専門的技術を要するもの、緊急性、継続性のあるもの、身体介護や家事援助に該当するものは対象になりません。

単発の困りごとは「高齢者困りごと支援事業」、継続性のある困りごとは「ほほえみサービス事業」とすみわけができています。

ています。

なお「高齢者困りごと支援事業」の利用料は無料です（ただし実費がかかる場合は利用者負担）。現在、月に30件前後の利用があり、利用相談は80件程度。依頼内容は電球の交換や家具などの移動。繕いものをする際の針に糸を通す作業などさまざま。区報などで周知しており、年に数回利用するリピーターが3割程度だそうです。

●他の社協にも拡がる

名称や内容は若干異なり、1回に500円ほどの有料にしているところもありますが、同様のサービスは他の社会福祉協議会にも拡がり始めています。

一方、従来からの定期的な住民参加型サービスのなかで単発の困りごとに対応する社会福祉協議会もあります。

広島県社会福祉協議会は

「オール広島ささえあいネット」を実施。住民同士がお互いさまの気持ちでささえあう、住民による有償の日常的な生活支援のしくみです。

家事援助など定期的な利用のほか、単発に発生する「ゴミの分別が分かりにくい」「蛍光灯が切れてしまった。新しい電球に取り替えないと……」「布団が重たくて一人じゃ干せない」といった声にも対応しています。県内の23自治体のうち13自治体が参加しています。

* *

いずれにしろ、生活のなかでさまざまな困りごとは頻繁に発生するもの。それを地域の人にサポートしてもらえるのは、当事者はもちろん離れて暮らす家族としても心強いサービスだといえます。